

令和2年度 自己評価表

鳥取敬愛高等学校

中長期目標 (建学の精神)	人格の完成、婦徳の涵養に努め、自主的精神に富める心身の健やかな国民を育成する。 「国際化・情報化社会の中で、自ら志を立て、誠意をもって、幅広く社会の発展に貢献する人間を育てる」	今年度の重点目標	(1) 学力の向上 学習支援体制の充実 進路実現 (2) チャレンジ精神の育成 国際理解教育の推進 (3) 基本的生活習慣の育成 (4) 自己肯定感の醸成
------------------	---	----------	--

年度当初					評価結果 (3) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状認識	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成の状況	評価	改善方策
学力の向上	確かな学力の獲得	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律は概ね良いが、授業に対する興味・関心、意欲が不足している生徒もいる 生徒の基礎学力に幅があり、基礎学力の定着が不十分な生徒も多い 各教科で課題を出したり、放課後学習に取り組んでいるが、十分な成果が出ていない 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が意欲的に授業に取り組んでいる 基礎学力の定着が見られる 家庭学習時間が増加し、授業の予習や復習が習慣化している 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で家庭学習が見込まれる課題などを提示するとともに、提出物点検等を徹底し、適切な評価を実施し、家庭学習の習慣化を図る 到達度テストやLiteras検定を利用して事前事後の取組を行うとともに、スタディサプリを活用した学び直しなど、活用推進を図る Classiでの学習時間調査や動画を活用した家庭学習、反転授業を導入し、家庭学習の充実を促す 	<ul style="list-style-type: none"> リクルートの到達度テストを全校で実施。特進コースでは正答率50%以上の生徒が7割を超えている、また、正答率80%を超える生徒も見られた 進学総合コースでは正答率が30%を切る生徒が3割に近づいており、学力レベルの差が大きい 家庭でのe-learningの活用、ネットを活用しての家庭学習はまだみだである 放課後の自主学習は、特進コースを中心に定着しつつあり、成果が出ている 	C	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な学力の定着には、学習の意義、学習の仕方など、根気強く指導を継続するほかに、努力を継続していききたい 特進コースに関しては学習量が増加も、成績の向上も見られ始めている。こちらも粘り強く取り組んでいきたい
	学習支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ICT環境の充実にもない機器を活用している教員は増えている 特進コースを中心に、学習に積極的に取り組む生徒も増えてきた 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業でICTの活用や授業改革が進み、職員全体が自己研鑽に努めている 生徒が目的を持って主体的に学習に取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業や授業公開、各種研修への参加を促し、授業改善に努める ICT機器の活用のため職員研修を行うとともに、情報環境の整備に取り組む 学習設備環境をより充実させる 個々の生徒のニーズに対応したプログラムを提供できるよう努める 	<ul style="list-style-type: none"> ICT環境を活用した授業がほとんどの科目で行われ、効率的かつわかりやすい授業が行われるようになった ただ、学習内容の定着という観点では依然として低い生徒も少なくなく、粘りつよい指導体制が必要である わかりやすく、生徒が主体的に学ぶ授業の実施に向けて取り組んでいる 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善の工夫への意識、粘りつよい指導体制、個別の進路目標設定を通じてのなど、さらに継続して、授業の質を高めていきたい
	ひとり一人の進路実現	<ul style="list-style-type: none"> ハローワークと連携して、職業意識の喚起に努めている 進路ガイダンス、進路LHR等、低学年から将来を考えるよう促している 	<ul style="list-style-type: none"> 体系的な進路指導が進められており、生徒が主体的に将来を考え、目標を持って進路実現に努めている 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を定め、就職活動に主体的、積極的に取り組ませる 外部模試等を利用して、各教科でPDCAサイクルを確立し、生徒の個に応じた学力の伸長を図るとともに、進路実現に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスや進路LHRの計画的な取組が行われ、専門学校より四年制大学への進学者が増えた。コロナ禍により学校訪問の機会が減少し、進路先の選定に遅れが見られた 就職内定率は100%であった 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が、目的意識を持って主体的に進路実現に取り組むよう指導を継続する
チャレンジ精神の育成	国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により、海外研修旅行などが実施できず今年度の交流についても未定である 	<ul style="list-style-type: none"> 語学も含め、様々な手段を駆使して自分の意志や考えを海外の人々に伝えようとチャレンジする姿勢がある 	<ul style="list-style-type: none"> 未定ではあるが、海外研修旅行、タイの学校との交流など機会を捉えて、自分の可能性を発見する機会とする 英語検定受検、国内での異文化体験などに積極的に取り組ませる 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生のシンガポール研修旅行を含めた、本校が例年実施してきた国際理解教育のほとんどが中止となり、生徒の視野を広げるチャンスが失われてしまった、また、それをフォローする企画も計画できなかった 	D	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の収束時には、本格的な国際理解教育の復活を行いたい(特に新2年生) コロナ禍であってもオンラインでの取り組みを企画実施していきたい
基本的な生活習慣の育成	基本的な生活習慣とマナーの定着	<ul style="list-style-type: none"> 65%の生徒が起床、学習、就寝時間を決めて生活していると答えている ほとんどの生徒が自分は校則やルールを守っていると思っているが、交通ルールや公衆モラルについて外部からの苦情もある 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での生活習慣(起床、学習、就寝時間など)が確立している より高い規範意識を持ち、落ち着いた基本的な生活習慣が身に付いている 	<ul style="list-style-type: none"> フォーサイト手帳を有効に活用するなど、生徒に将来の目標を設定させ、それに向けて自己管理に何が必要か考えさせ、生徒の変化を期待する 各学年・授業担当者との緊密な連携を図り、日常的な指導を徹底するとともに、定期的な全体指導を充実させる 生徒・保護者への丁寧な説明と適時な連携による指導を徹底する 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻については、保護者への注意喚起を実施した学年では年度後半に少なからず効果が見られた 公共マナーについての指導や道徳的説話を粘り強く行った 不十分な面もあるが、学校への指導要請も減った 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活のあらゆる場面で生徒の生活指導の場面であるという意識を職員全体で統一していきたい 探究の時間での地域とかかわりから適切なマナーを身に付けられるよう指導を継続したい
	豊かな人間関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> スマホ依存度の高い生徒もおり、SNSを通して人間関係のトラブルのある生徒もいる 生活アンケートやhyper-QUを活用して良好な学級集団づくりに取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> スマホ・携帯電話などの利用やSNSの適切な利用マナーが定着しており、周囲に配慮した言動ができる 生徒にとって学校が安心・安全な場所となっている 	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会・学年集会・HRなど機会あるごとに、スマートフォンの扱い方やSNSの危険性について啓発活動を継続して実施する 生活アンケートやhyper-QU、個別面談等を通して生徒理解に努め、保護者と連携を図り、生徒の様子の変化に迅速・適切に対応する 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において、優しさや思いやりについて考える機会が増えた。しかしながら、人間関係がSNSによって構築されることもあるが破壊されることも多く、職員から見えない場所でのトラブルがおこるようになり、職員指導の行き届かないことも多くなってしまった 	C	<ul style="list-style-type: none"> 担任、養護教諭、SC等の連携を深め、生徒のわずかな変化を見逃さないよう努める SNSとの付き合い方について、職員の指導力向上が必要である
自己肯定感の醸成	学校行事・部活動などへの積極的参加	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事(敬愛祭・研修旅行・遠足等)や学級活動へは比較的積極的に参加している 役割を与えられたり指示をされた場合は責任を持って取り組むが、主体的に取り組もうとする意識を育む必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や学級活動、部活動さらにはボランティア活動などに主体的に参加し、他者と協力してや自己有用感を感じることができている 	<ul style="list-style-type: none"> 自分を成長させる大切な場である学校行事や学級活動、部活動など集団での取組を通して、生徒に自分の役割を自覚させるとともに他者のより良い関わり方を身につけさせる 学校生活における様々な場面と、生徒個々の良さを見つけ声をかけるよう心掛ける 各種活動や事業の生徒への広報・募集の方法などを工夫し、主体的に取り組めるよう促す 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心に学校祭や、校内球技大会、卒業生を送る会など、自主的な活動場面が見られるコロナ対策を実施する側の立場を理解させるいい機会になった 部活動の加入率は、前年度に比して上昇傾向にあるが、今一步の面もある 	C	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、生徒会執行部などリーダーの養成に努める 機会を捉えて、部活動の意義を伝え、加入率をさらに上げていきたい

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化が見える D: まだ不十分 E: 見直しが必要
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]